

I. 事業目的と背景

1. 事業目的と背景

「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定)においては、「すべての健康保険組合に対し、レセプト等のデータ分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組みを求めるとともに、市町村国保が同様の取組を行うことを推進する。」とされ、保険者はレセプト等を活用した保健事業を推進することとされました。

データヘルス計画には健康・医療情報(健康診査の結果や診療報酬明細書(以下レセプトという)等から得られる情報)を活用し、健康状態や健康課題の分析、保健事業の評価等を行い、PDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業を実施するために策定するものです。

社会環境やライフスタイルの多様化により疾病に占める生活習慣病の割合が増えてきていますが、健康的な生活の維持・重症化予防・医療費全体の適正化にも資していくことが求められています。

2. 基本方針

データヘルス計画では、中央市国民健康保険の実情に合わせた計画を策定し、効率良く実施します。

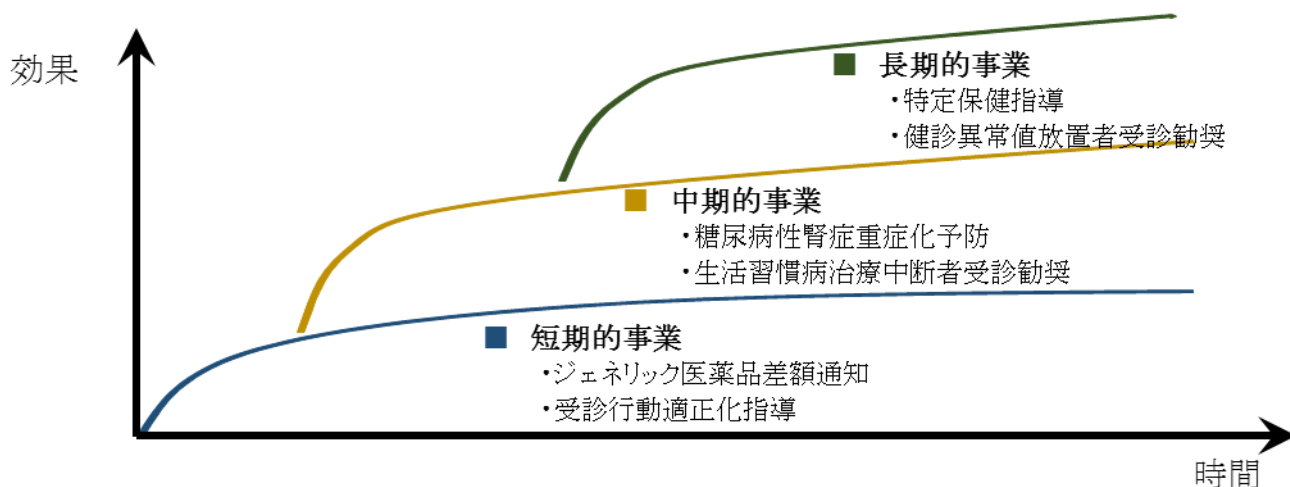
1. 疾病ごとの医療費比較、高額レセプトの発生状況や発生元となる疾病の把握を行い課題を明確にします。
2. 明確となった課題より、即効性があるが効果額が小さい「短期的な対策」、即効性はないが将来の大きな医療費削減につながる「中長期的な対策」を選択します。
3. 計画策定にあたっては中央市国民健康保険特定健康診査等実施計画、中央市健康増進計画、介護保険事業計画と十分な整合を図るものとします。

3. 計画の期間及び計画の見直し

計画の期間は中央市国民健康保険特定健康診査等実施計画(第2期)との整合性を勘案し平成28年度から平成29年度までの2年間とします。なお計画期間中においても目標の達成状況や事業の実施状況の変化等により計画の見直しが必要になった場合は、随時修正します。

4. 個人情報の保護

個人情報の取り扱いについては、個人情報の保護に関する法律及び中央市個人情報保護条例等を順守します。



5. 保険者の特性把握

(1)基本情報(人口及び国民健康保険被保険者状況等)

本市の平成26年度人口は、29,383人である。高齢化率(65歳以上)は19.1%、山梨県25.0%と比較すると約0.76倍、国23.2%と比較すると約0.82倍です。

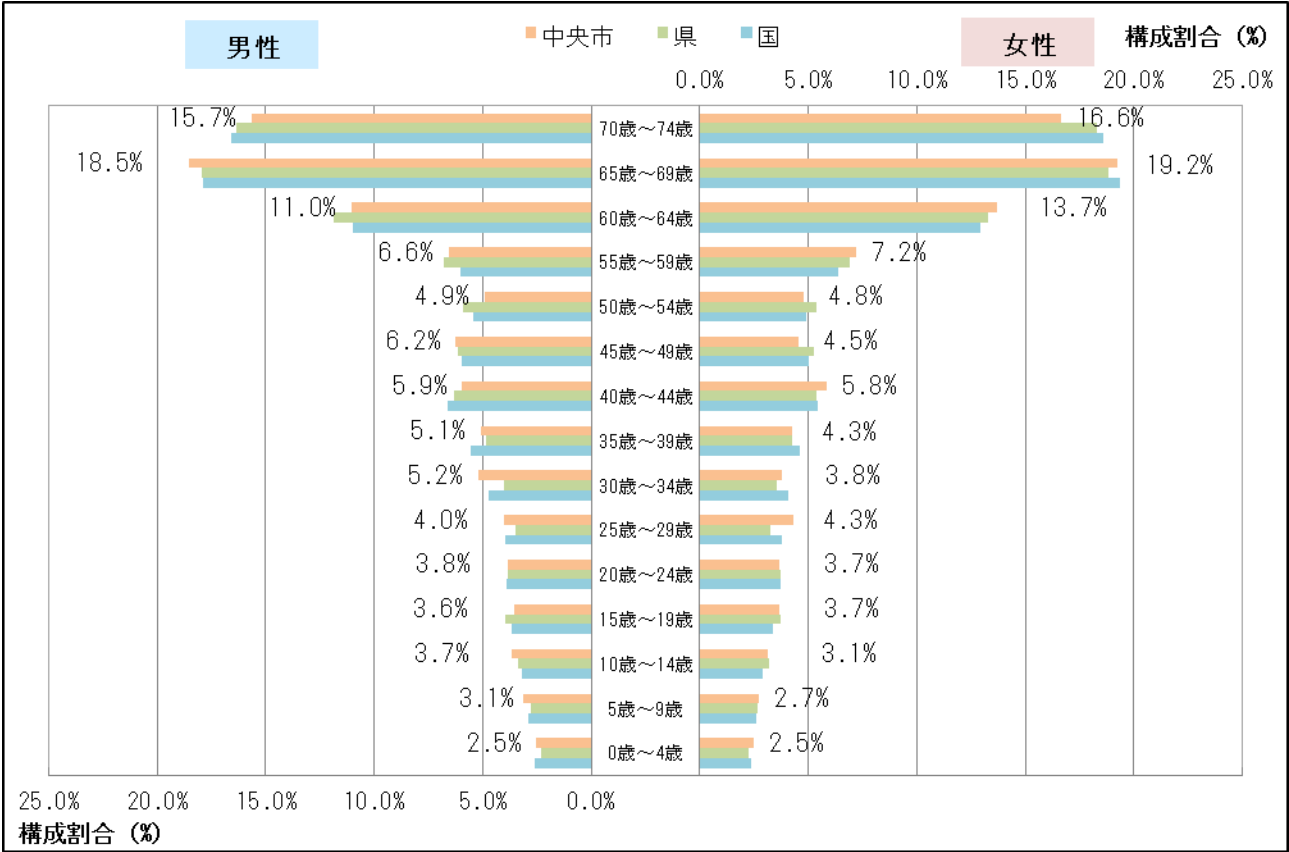
国民健康保険加入者は、8,009人(国保加入率27.3%)です。国保加入者の平均年齢は49.8歳です。

人口構成概要(H26年度)

	人口総数 (人)	高齢化率 (65歳以上)	国保 被保険者数 (人)	国保加入率	国保 被保険者 平均年齢 (歳)	出生率	死亡率
中央市	29,383	19.1%	8,009	27.3%	49.8	8.4%	7.4%
山梨県	845,233	25.0%	242,947	28.7%	50.5	7.9%	11.0%
国	—	23.2%	—	28.8%	50.3	8.6%	9.6%

※「県」は山梨県を指す。以下全ての表において同様である。
※国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」より

男女別・年齢階層別被保険者数構成割合ピラミッド(H26年度)



※国保データベース(KDB)システム「人口及び被保険者の状況」より

(2)介護保険の状況

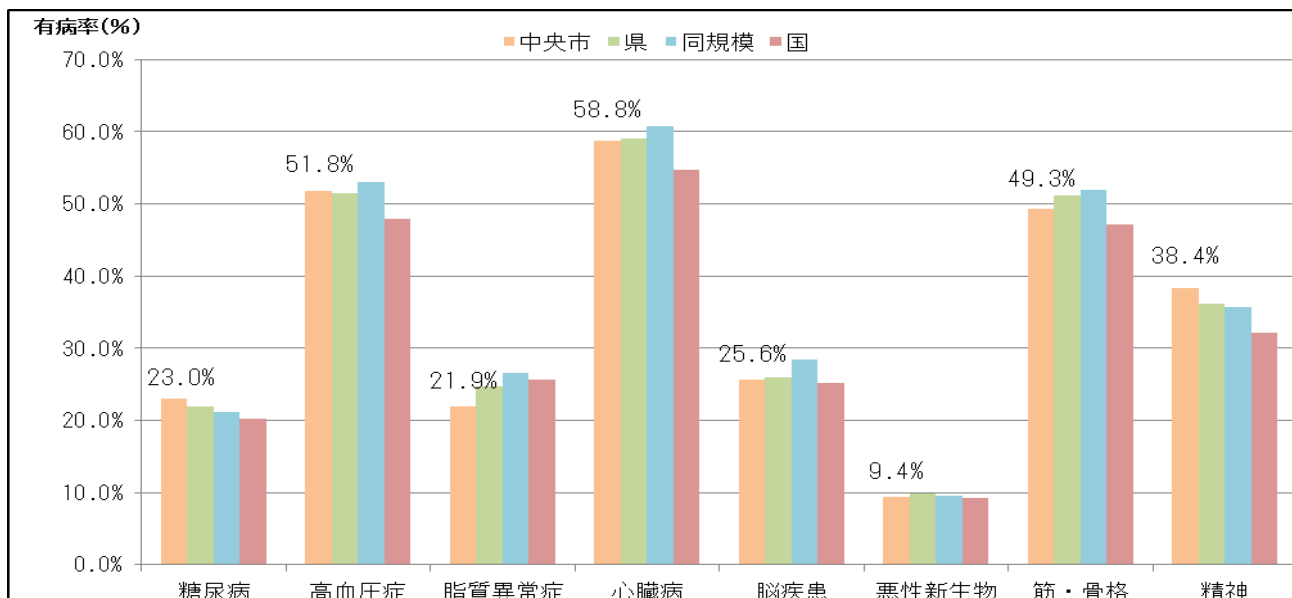
本市の介護保険認定率及び給付費等の状況を以下に示します。認定率は14.6%ですが、認定者数の中の40～64歳の認定率は3.7%で山梨県や全国に比べ高率でした。

➤ 介護保険認定率及び給付費等の状況(H26年度)

区分	中央市	県	国	同規模
認定率	14.6%	17.4%	20.0%	20.1%
認定者数(人)	840	38,062	5,324,880	523,363
第1号(65歳以上)	809	37,174	5,178,997	511,692
第2号(40～64歳)	31	888	145,883	11,671
	(3.69%)	(2.33%)	(2.74%)	(2.23%)
一件当たり給付費(円)				
給付費	73,177	66,969	60,773	67,641
要支援1	11,014	11,504	12,041	12,044
要支援2	18,413	18,052	18,910	19,338
要介護1	39,857	39,667	40,034	43,558
要介護2	56,440	50,649	50,769	55,491
要介護3	82,544	81,988	81,313	89,630
要介護4	111,390	108,841	107,254	121,603
要介護5	123,461	120,219	124,396	146,921

➤ 要介護認定者の疾病別有病状況(H26年度) グラフ

認定者一人当たり、2.9種類の疾病を併発しています。心臓病(58.8%)、高血圧症(51.8%)、筋・骨格系疾患(49.3%)が高率です。



※国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」より

＊第2号(40～64歳)認定者の主な原因疾患

平成28年3月18日現在の認定者29名の申請疾病をみると

脳血管疾患21名(72.4%)、次いでがん末期3名(10.3%)、関節リウマチ2名(6.9%)の順でした。

(3)死因の状況

中央市の死因の第1位は悪性新生物であり、次いで肺炎・老衰です。悪性新生物や心疾患、脳血管疾患のような予防可能な疾患の死因を減らすことが課題と考えます。

➤ 主たる死因とその割合(H26年度)

	H22	H23	H24	H25	H26
悪性新生物	22.7%	31.1%	25.9%	21.9%	21.7%
心疾患	20.7%	10.6%	13.6%	7.9%	12.0%
肺炎	14.1%	15.2%	15.8%	13.0%	15.9%
脳血管疾患	9.1%	9.5%	5.3%	8.8%	5.8%
老衰	6.6%	10.2%	10.1%	14.4%	14.9%

保険者の基本特性からわかったこと！！

◆国保加入率は27.3%、人口の減少に比例し、減少傾向にあります。

中央市の全被保険者8,009人(平成26年度時点)のうち、前期高齢者(65歳～74歳)が2,806人と全体の35.2%を占めています。前期高齢者の割合は平成22年度(※)では27.3%であったため高齢化が進んでいます。

◆介護認定率は、県・国に比べ低率であるものの、40～64歳の2号被保険者の認定率は県に比べて、高率です。

介護保険認定者の有病状況を見ると、心臓病は6割、高血圧症は5割の人が罹患しています。

2号被保険者介護認定原因疾患は、脳血管疾患が72.4%、次いでがん末期で10.3%でした。予防可能な疾患が第1位です。

◆死因の第1位は、平成22年から平成26年の間で悪性新生物でした。

また肺炎・老衰の割合が増え、高齢化による自然死の割合が増えてきていると思われます。

(※) 平成23年3月 国保事業月報より